

国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)

平成 28 年度 事業実施報告

新規事業・取組 Iki・Tomo 推進事業 【 】 " 推進事務局

< 全般事項 >

・ロードマップの作成及び取組推進

2020 年に向けた UNDB-J や構成団体の取組をまとめたロードマップを、6 月の委員会、9 月の幹事会を経て、10 月の生物多様性全国ミーティング(岐阜県)において公表。

・COP13 における UNDB-DAY の開催

メキシコのカンクンで開催された COP13 において、生物多様性条約事務局とともに、サイドイベントとして「国連生物多様性の 10 年の日 (UNDB-DAY)」を 12 月 5 日に開催し、UNDB-J 等の取組を国際社会に発信。関環境副大臣、二宮経団連自然保護協議会長、ジアス CBD 事務局長等が出席。生物多様性わかものネットワークの派遣を実施。

< 個別事業 >

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

(1) MY 行動宣言 5 つのアクション・100 万人の MY 行動宣言

2020 年までに 100 万人の宣言を目指し、多様な MY 行動宣言活用を促進。日本動物園水族館協会、IUCN-J の協働で、「教育展示施設版」MY 行動宣言シートを作成し、動物園ほか展示施設利用者への活用を促進。一次産業における連携した取組について、農水省と連携した取組を開始。また、企業への活用を働きかけ。(平成 27 年度末時点で約 1 万 5 千宣言 平成 28 年度末時点で約 4 万 6 千宣言)

(2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

104 件の応募から、審査を経て 5 つの部門賞ほか特別賞を決定。11 月の表彰式において 5 つの部門賞の中から大賞を決定。

2. セクター間の情報交換・連携促進

(1) 国連生物多様性の 10 年日本委員会 地域フォーラム

各地域における様々な主体が一堂に会し、事例紹介やワークショップを行うフォーラムを 11 月に岡山市、1 月に仙台市、2 月に東京で開催。

(2) 生物多様性全国ミーティング

「第6回生物多様性全国ミーティング」を10月20日に岐阜県にて開催。約500人が参加。UNDB-J委員、生物多様性リーダーである小菅正夫氏からご講演を頂いた。

3. 主流化に向けた活動プログラム

(1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

<「生物多様性の本箱」300館プロジェクト>

推薦図書「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を2020年までに300館達成することを目指して、登録システムを構築するとともに、自治体ネットワークへの呼びかけを実施（平成28年度末時点126館・施設）。

<本箱寄贈プロジェクト>【日本自然保護協会等】

経団連自然保護協議会の指定寄付により、2ヶ所の寄贈を実施（H29年度に繰り越し）。

(2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

UNDB-Jが推奨する連携事業を9月（第9弾）に10事業、3月（第10弾）に13事業を認定。

(3) グリーンウェイブ2016【国土緑化推進機構】

参加団体230団体、協力団体265団体

参加人数約29,500人、植樹本数約15,200本

(4) 生物多様性イベント支援ツール

自治体からの依頼に応じて、広報ツールの提供を適宜実施。

4. 情報発信

(1) 平成28年 生物多様性関連情報 一斉報道発表

5月22日の「国際生物多様性の日」周辺でのイベント・行事について取りまとめた報道発表を5月10日に実施。125件のイベント情報を取りまとめ、発信。

(2) UNDB-J 構成団体の機関誌等を活用した企画記事の一斉掲載

5月22日の「国際生物多様性の日」の周辺にて、UNDB-J 構成団体の機関誌、メーリングリストを活用した、UNDB-J の取組に関する記事の同時掲載を12団体の機関誌等で実施。

(3) 生物多様性マガジン「Iki・Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用小冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を3回発行。

Vol.12 田んぼ

Vol.13 認証商品

特別編 図書館を使った調べる学習コンクールの紹介

(4) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイトの運営。UNDB-J 委員団体、連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体、委員推薦組織の取組や商品・サービス・イベントの紹介を掲載。UNDB-J facebook「Iki・Tomo パートナーズ」との連動。

「農林水産分野の生物多様性連携シンポジウム」にて農林水産関係者への「生物多様性.com」と UNDB-J の活動紹介。

(5) facebook「Iki・Tomo パートナーズ」

平成 29 年 3 月末時点：いいね！2,360 人、昨年度比約 350 人増加。認定連携事業や COP13・UNDB-DAY をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組を広く発信。

(6) UNDB-J ウェブサイト【日本自然保護協会】

UNDB-J の活動状況等を発信。ロードマップの掲載、全国ミーティング、地域フォーラム等イベントの参加申込受付・開催報告、「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設の登録システム整備。MY 行動宣言「教育施設版」、「生物多様性の本箱」展示活用等、ツール類の公開、キャラクター応援団、サポーター企業の紹介。

(7) イベント

5 月のみどりの感謝祭、10 月のグリーンチャレンジデーに出展。

(8) ユースの国際会議への派遣【国際自然保護連合日本委員会】

ユース（生物多様性わかものネットワーク）を COP13 に派遣。

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

10 月の生物多様性全国ミーティングにおいて、生物多様性リーダーの小菅正夫氏が講演を実施。生物多様性マガジン「Iki・Tomo」Vol.12 において、生物多様性リーダーの大桃美代子氏のインタビューを掲載。環境省広報誌「エコジン」2016 年 12 月 1 月号（特集「生物多様性と私たちの 2020 年」）において、生物多様性リーダーのイルカ氏のインタビューを掲載。

(2) 生物多様性キャラクター応援団

新たに 8 キャラクターが入団（平成 28 年 12 月末時点）。10 月の全国ミーティング、グリーンチャレンジデー等において、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地等のキャラクターが、今後協力して普及啓発に取り組むことを宣言する「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施。

6. 委員会等の運営

・ 委員会（6 月）、幹事会（9 月、2 月）、運営部会（6 月、9 月、1 月）を開催。